

第2回日本数学 A-lympiad 解答例 審査委員コメント

(金沢大学人間社会研究域学校教育学系 伊藤 伸也 准教授)

この「解答例」では、“Final assignment”の“10”において、過去の国際大会 Math A-lympiad の最適な開催地について、“Assignment 3”で得た評価要素（変数）を基に、インターネットから得た実際のデータを用いて、絞り込み、候補地ごとに各要素について検討し、比較して、結論付けています。“11”においては、この大会に棄権したチームが参加できた場合の最適な開催地について、分かりやすく絞り込み、各チームの利便性を検討し、総合して、結論付けています。さらに、“12”においては、Math A-lympiad の最適な開催地をどのように決めるかについて、今後 10 年の場合と、更に先の場合とに分けて、条件や仮定を明示して、候補地を提案しています。

“Final assignment”に対して深い考察ができていないレポートが多い中、この「解答例」では、表、グラフ等の表現を用い、数学を使って判断の根拠を明らかにし正当化しています。また、考察する要素、条件や仮定を明示したり、場合に分けたりするなど、読みやすく明確です。ただし、この「解答例」は、開催地を決める一般的な方法を十分に説明しているわけではないなど、審査の観点から相対的に優れているものであることに留意してください。